



第51号

発行
山辺地区社会福祉協議会
事務局
山辺公民館内
TEL 0284(71)0516

すなおな心 (はい)

奉仕の心 (私がします)

反省の心 (すみません)

感謝の心 (ありがとう)

謙虚な心 (おかげさま)

山辺地区日常五心



市社協近藤事務局長

来賓祝辞では、塩田県議から変化の大きい時代に多方面への活発な活動に感謝する、小林市

又初の善行表彰として、一住民の立場ながら公民館南の多目的広場の除草奉仕をしてくれたいる鈴木弘子さんが受賞した。

表彰は塩谷秀子さん、大平ハツ子さん、中家和子さんが受賞。

また、功労者表彰を實施。長期役員退任表彰では山辺社協発足時より理事を務められた山鹿辰雄氏が、長期ボランティア退任表彰では老人給食事業に発足以来従事された加藤信子さんが、顕彰表彰された。

5月17日、公民館別館ホールにて今年度の総会が、多くのご来賓を含め、約百名の方々の出席の下に開かれた。

27年度 総会

着実な実績を継ぐ活動計画を承認

5月17日、公民館別館ホールにて今年度の総会が、多くのご来賓を含め、約百名の方々の出席の下に開かれた。

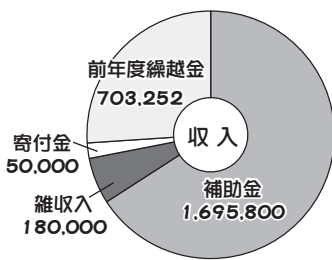
議長から地域の安全安心に向けて市議も協力を惜しまない、市社協代表の近藤事務局長からは、市としての新たな生活支援事業も始まり地区社協活動支援へも一層注力する、と頂く。そして来賓紹介では全員の方々から一言ずつ温かい激励の言葉を頂くことができた。

続いて登録福祉ボランティア代表として今年度は桂都代会・さくら会有志の民舞の披露。

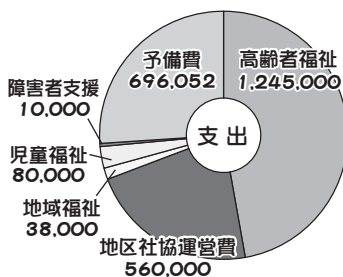
小憩後の議事では前年活動実績・決算報告、役員補任事項、今年度活動計画・予算等いずれも満場一致承認で議事を終了。最後に市社協石田係長と中西担当員の挨拶を頂き総会を終えた。

H27年度予算グラフ

収入内訳 総額2,629,052円



支出内訳 総額2,629,052円



今年度の主な事業

- ◆ 高齢者福祉
独居老人給食サービス
友愛訪問・特別会食会
老連支援・講演会開催
いきいきサロン支援
安心キット普及
- ◆ 障害者福祉
体験研修又は訪問交流等
- ◆ 児童福祉
福祉教育支援
子育てサロン運営
- ◆ 地域福祉
ふれあいハイキング
福祉ボランティア育成
山辺文化祭模擬店事業
- ◆ 地区社協運営
地区外研修ツアー
広報紙発行・総会・
理事会・支部活動支援

日常五心を忘れず、支えあえる活動を

総会時の挨拶・山辺地区社協会長 稲垣柳一郎

好天に恵まれ、皆様何かとお忙しい中、ご来賓の皆様を始め当社協総会に多数ご参加頂き大変ありがとうございます。

全住民が安心して暮らしている地域づくりは、住民は勿論のこと地域内の各団体の共通する目的でもあります。当山辺地区社協は、その中で「福祉」という面で区内各団体とボランティアが集まって活動を進めていく組織です。「福祉」の範囲は

日々の生活面に結びついてとても広いだけに、山辺地区社協の活動は多岐に亘っております。老人や子供、障がい者対象の福祉活動だけでなく地域住民への対応事業も含まれております。活動の詳細は本日の資料をご

区社会福祉協議会



表彰される方々へ記念品を贈呈

参照頂きたいが、市内他地区に比しても極めて活発な活動内容だとの評価も頂いております。それらは偏に、企画立案に努力してくれる関係者、そして参加・実行してくれている多数の皆様方のご協力と努力の賜物だと改めて御礼申し上げます。地区社協だよりのタイトルに明示する「山辺地区日常五心」を忘れず、皆さんの力強いご支援とご協力の下に、今後とも当社協の活動が継続できますよう、宜しくお願い申し上げます。



ご来賓と総会参加の方々

総会にご臨席のご来賓

- 県議会議員 同 早川尚秀様
- 市議会議員 同 塩田 等様
- 市社協事務局長 同 小林克之様
- 同 栗原 収様
- 同 吉田晴信様
- 山辺小学校長 近藤康彦様
- 南小学校長 川島初夫様
- 山辺中学校長 岩崎和則様
- みなみ保育所長 菊地廣光様
- 八幡こども館長 岡田町子様
- 山辺公民館長 英木温子様
- 小野秀典様

平成27年度 山辺地区社会福祉協議会 役員

監事 樋口茂延 齋藤修一 齋藤美代 高瀬雅子 新江義夫 柳澤 猛 栗原 収 宮澤秀喜 田島章廣 小林英一	理事 榊輪省三 自 齊藤智男 自 坂本三郎 自 堺本松枝 自 青山征史 自 堀越幹夫 自 山本順一 自 飯田三郎 自 岡田 朗 自 石川昭二 自 中村征男 自 石島 力 自 松本留男 自 田中榮太郎 自 金井 弘 自 古山 高 自 小暮 保 自 増山貞夫 自 島田恵子 自 伊藤眞津江 自 橋本静江 自 新井 明 自 金井幸子 自 上岡恵子 自 増田晴美 自 川島健勇 自 須永貞子 自 大塚雅代 自 西田尚弘 自 三村知司 自 松葉みつ子 自 安達初枝 自 須永利江 自 生澤きくえ 自 柴崎満子 自 宮沢秀喜 自 田島章廣 自 小林英一 自 須永昭 自 岡村貞敏 自	会長 稲垣柳一郎 自 副会長 菅 弘武 自 三田忠良 自 小堀蒼洋 自 星野眞之 自 増田 隆交 自 本橋裕一 自 今泉侖一 自 今野歌子 自 事務局長 樋口茂延 自 常任理事 齋藤修一 自 齋藤美代 自 齋藤 進 自 萩原恵美子 自 仁木明子 自 永倉みさを 自 高瀬雅子 自 新江義夫 自 柳沢 猛 自 栗原 収 自 岸 定彦 自
---	--	--

華やかに和やかに、多彩な舞台が

第二回福祉ボランティア合同発表会 大盛況

3月7日公民館別館ホールで山辺中のクラブを含めて14の個人・団体の出場で行った。3年前の第一回発表会が好評で開催を待望する声が大きかったもの。各サークルは日頃から芸・技を研鑽されており、山辺社協に登録して福祉施設等での慰問奉仕に活動されている。

民舞、オカリナ、フラダンス、三味線、詩吟、手品、コーラス、トーク、和太鼓のサークルの他に、山辺中美術部の子育てサロン向け創作紙芝居、吹奏楽部のリコーダー合奏の発表も加わり、出演者の家族・友人や楽しみにしてくれていた地区住民の方々に

を含め、来場者は優に230名を超える大盛況となった。出演者の持ち味も十分に発揮され、山辺地区福祉活動に華を添える行事ともなり、出演者・

来場者共に楽しめた有意義なひと時となった。



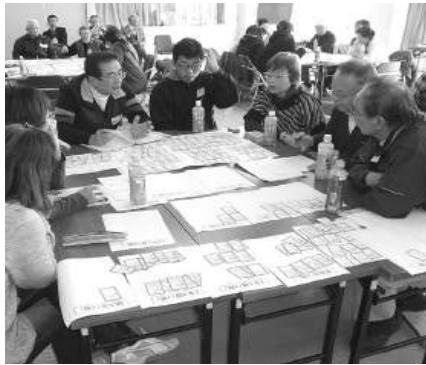
災害だ!!避難所でどうすれば良いのか!?

災害ボランティア講座開かる

2月1日、市社協主催で栃木ボランティアNW矢野氏を講師として開催。本講座は単なる講義ではなく、疑似体験下で自分は何をすべきかを学ぶ講座で、まことに実戦的であった。

参加者を班分けし、「災害シミュレーション」では刻々と被害状況が変化していく中、今どう対応するかを班内で討論する方式で行われた。

次の「避難所運営ゲーム(HUG)」は、ある条件下の避難所に今自分が避難してきて、これから起こるであろう大混乱を、リーダーとしてどう対応していくかを疑似体験するゲーム。



HUGに熱くなってる各班

老人・子供・病人・外国人・旅行者等、種々多様の避難者の誘導、水・トイレ・火等のインフラの問題等、事象が書かれたカードが次々と読み上げられ、その対応を避難所平面図の上に如何に適切にすばやく配置していくか、又、生ずる様々な事態に如何に適切な指示と方向付けができるかを体験するもの。

グループ内で言い合いながら進めるが、正に自分でもパニックになりそうな感覚を持った。その後各班の発表。講師から、運営方法等基本の解説があったが、万一の時にパニックしない避難所にするには「どんな問題が生ずるのか」ということを正しく把握・理解しておくことが決定的に大事だ、ということがゲームを通じて理解できた。

午後は「災害とトイレ問題」。阪神大震災を例に悲惨な状況の解説があったが「入れることより出す方が深刻な問題」には納得。(下水も上水も壊れた避難所どう処理するのか、の問題)そこで、ダンボール箱を使っ

て腰掛型の簡易ポータブル便器の作り方を実習する。コツを掴めば出来栄もそこそこ。今回の講座は得るものが多く、是非定期的に開催してほしい。

郷土山辺の今昔譚 第五回
「龍神の棲むといふ三栗谷用水とはどんな川?」
後編 田部井 健 二二氏
前号で400年の歴史を有する用水だが明治以降干害と鉱害に悩まされた河南地区の農家が、昭和13年から国と県を動かして当時の国の模範工事と言われた大改良工事に着手していく所までを記した。

その工事には3つの特徴があった。一つは用水の漏水を防ぐため水路の三面をコンクリートにしたこと。二つ目は渡良瀬川の水門から取り入れた用水の流れをゆっくりにして、水に含まれる鉱毒(銅分等)を沈める沈砂池を設置したこと。(跡地は中川浄水場) 三つ目は集水渠地下水を集める水路)を設置したこと。これは渡良瀬川の表流水取り入れが困難な場合に地下水を集めて補う工夫だった。(写真は地下水の出口。)

昭和43年、30年間に亘る大改良工事がここに終了し、農家の人々の悲願が達成し、十分な取水が可能になった。

現在米作りの時期になると太田頭首工(水の取り入れ堰)より安定した水量が三栗谷用水路に供給され、山辺地区をはじめ下流の御厨・梁田・筑波・久野の各地区(総面積八五五ha)に豊かな水を送り続けている。

私は子供の頃、堀込の古老から聞いた三栗谷用水に棲むといふ龍神様の話を今でも覚えていゝる。それは雨や水が欲しい時それらを支配する神である龍神様をお願いすると必ず叶うという話であった。

この滔々たる流れを見ると、いつもこの話が思い出され、今でも大切な役割を果たし続けている三栗谷用水に圧水に倒され、思わず手を合わせてしまうのです。



横手橋西の3ヶ村分水部。(中央が地下水の出口)